

研修名 支援を必要とする子供の保育

令和元年8月5日(月) 13:30~16:00

講演 「障害のある子どもとほかの子どもとの関わり」  
「他職種との協働」

講師 京都文教短期大学 張 貞京 氏

## 1 講演要旨

### 1) 障がいのある子どもの発達を促す環境

まず、今の環境を見直す。

#### ■空間的

- ・隣の音が大きすぎて集中出来ない
- ・自分が座る場所や立ち位置はわかりやすいか
- ・片付ける場所は使いやすいか
- ・大人の都合を優先した空間作りになっていないか

#### ■物的

- ・年齢、発達にあった道具が用意されているか
- ・何がどこに入っているかわかりやすくなっているか
- ・子どもの動きを妨げる配置になっていないか

### 2) 保育者としての関わり

- ・観察記録をとる。テーマを決める・時間を決める・特定の子どもの関係に注目するなど。自分で決めてしっかりと見て記録をとる。続けてみることで傾向が見えてくる。
- ・安心出来る大人として、集団生活を送る植えでの安全基地を作る。
- ・他児との関係に注意し、豊かな経験が出来るようにする。
- ・保育士の言葉はプラスにもマイナスにもなる。プラスの言葉を周りの子どもに広げ、子ども自身が気付いていない思いに保育士が気付けるようにする。

例 大人の問いかけに答えられない理由は？

- ・他に気になることがあった
- ・先生の話に注意を向けられず、聞き逃した。
- ・話は聞いていたけど、自分の話したいことを優先した。など

※2つ以上を意識することが難しい

### 3)他児との関わり

- ・常に視野の中にいる→大人に比べ、予想がつかない存在であり、気になる存在
- ・同じ物をほしがる→大人に比べ、手が届きそうで、まねしても良さそうな存在
- ・気になる
- ・心地悪いことをしてくる

※他児とのトラブルが起きない子どもにも目を向ける

※けんか場面は、大切な学びの場

### 4)他職種（給食室・送迎バスの運転手・用務員さん）との関わり

- ・担任ではないから見せる姿もある。
- ・共通認識を持つ

## 2 感想

気になる子どもとの関わりについて、担任保育士だから出来ることや、子ども同士の関わりなどから学べることもあると知った。その子が今いる環境から見直して、生活しやすい環境作りをしていく必要があると思った。保育士の言葉は、気になる子どもだけでなく、その周りの子にも影響を与えることが出来ると知り、クラス全体がプラスに感じられる言葉を広げていきたいと思った。そして、子ども自身が気付いていない思いを見つけていきたいと思った。子どもの行動にもそれぞれに理由や思いがあり、どうしてそのような行動が出るのかを考えていくことが大切だと学んだ。子ども同士の関わりも、トラブルを含め経験することで学んでいくことになるので、見守りながら成長できるように関わっていきたいと思った。

（記録 京田辺市立草内保育所 山本 菜生）